

知的障害を持つ人の支援を始めて

自立生活センターアシストミル 岩本

・紹介

自立生活センターとして相談支援

介助派遣事業

私—当事者—コーディネート

・Uさんのお母さんの思い

介助支援の依頼（2007年・秋）※Uさん一人暮らしを始める

・Uさんとのかかわり方

アシストミル・・・相談でかかわる

静岡めぶきの夜会の参加

・Uさんの具体的な支援

ケース会議を経て（2009年・6月）

同性介助

計画を事業所で勝手に決めない

介助派遣事業所での支援（2009年・秋）※Uさん1回目の引越しを余儀なくさせられる

当初の模様

お母さんと事業所とUさんの良好な関係

・現在

昨年9月風呂介助を始めてから・・・キャンセルもなくなった。理由??

お互い様な関係（事業所もミスをする）介助者の変更を介助者に伝え忘れていた。

介助時間数が足りない問題（当初、朝・夜2回～3回/週→現在、毎日、時間が少なくても家事援助、身体介護、移動支援を組み合わせ入っている）朝、お弁当の用意（経済的負担の軽減）

最近のこと

久しぶりのキャンセルだが・・・

電子レンジの話

あらたに発達障害を持つ人の支援（今年の1月から）と知的障害を持つ人の支援が始まる。

・まとめ（思うこと）

知的障害を持つ人の支援には、障害の重い軽いにかかわらずある一定の保障された時間（サービス量）が必要。

支援つき自己決定（介助者の働きかけかた）

支援がなくていいという人はいない。逆に支援こそ自立した生活をおくる時の環境の一つであり、それを充実しなければならない。一人になった時に困らないように、出来ない事を出来るようにするという事でなく、支援が必要という前提に立ちより良い関係を築いていく。